

1. 本誌の目的

本誌は、日本作業科学研究会の学術誌として、作業科学に関する研究の報告の場を提供することを目的とする。

2. 本誌の特徴

本誌は、日本学術会議の協力学術研究団体である日本作業科学研究会が発行する作業科学の査読付きの専門学術誌であり、発行形態はオープンアクセスの電子ジャーナルである。

3. 投稿資格

筆頭著者は原則として本会の会員（当該年度の会費を納めている必要あり）とする。ただし、依頼原稿についてはこの限りではない。

4. 投稿論文（査読付き）

投稿原稿は、作業および作業的存在に焦点を当てたものであり、作業科学の学術的発展に寄与するもので、未刊行のものに限る。論文の種類は次の通りとする。

(1) 原著論文：明確な目的と研究デザインに基づいて実施された研究の報告であり、先行研究を十分に踏まえた上で、学術的に一定程度の新規性が認められるものである。研究倫理に配慮し、学術論文としての体裁を整える必要がある。査読では学術的新規性が特に重視される。

(2) 実践報告：作業科学の知見を活かした実践や介入、機器開発などの会員にとって有益な情報を紹介することを目的とした報告（事例報告を含む）。ただし、新規性が高いものは原著になりうる。査読では会員に対する有益性が特に重視される。

(3) 文献研究：作業科学に関する既存の文献情報をデータとするシステムチックレビューやメタアナリシス、スコーピングレビュー、総説的なナラティブレビュー（総説）である。ただし、新規性が高いものは原著論文になりうる。

(4) 短報：新しいアイデアや最新の動向などについて報告する完結した短い研究報告。主要情報を中心にまとめ、研究背景や考察は原著論文等に比べて簡潔で構わない。査読では速報性の意義が特に重視される。

5. その他記事

編集委員会が依頼する学会講演の資料や解説論文、書評など。

6. 原稿の採否（査読）

投稿論文は2名の査読者によって査読し、原稿の採否および掲載の順序は編集委員会で決定する。必要に応じて、査読後に加筆、修正をお願いすることがある。また、編集委員会の責任で図表の修正や語句の多少の修正を行うことがある。

7. 投稿方法

原稿は全て PDF 形式（ただし、本文は字数確認のため MS-Word 形式も併せて添付）で編集委員会事務局（jjos@jssso.jp）に e-mail で添付して送付する。

- ①本原稿：著者名，所属，倫理審査の承認施設などを記載した原稿
- ②匿名原稿：査読用に著者名，所属，倫理審査の承認施設やその他投稿者が特定できる本文中の記述を削除した原稿
- ③修正対応表：修正後再投稿では，査読者コメントの全てに対して，著者の回答を対応表形式で記載すること。また，本文の修正箇所を明記し（例：P1,L2-3），さらに，本文中の修正箇所を赤字やハイライト（塗り潰し）などで強調すること。

8. 投稿・掲載費用，著作権等

投稿・掲載費用：投稿料および掲載料は原則無料である。ただし，採択された原稿の図表を改めて業者に作成依頼する必要がある場合などは，投稿者が実費を負担する場合がある。なお，本誌では別刷り（別冊）は作成しない。

著作権：掲載されたすべての論文の著作権は本会に帰属する。ただし，所属機関や学位論文，科研費等の学術機関リポジトリへの登録を妨げるものではない。

9. 執筆要領

- (1) 研究倫理：著者は著作権や研究対象者の人権を十分に尊重する必要がある。研究倫理審査委員会等の承認を得た場合は承認番号を本文中に記載すること。
- (2) 論文の体裁：投稿論文は学術論文としての体裁を整える必要がある。背景，目的，方法，結果，考察，結論，文献といった見出しで構成され，要旨を備える。各研究デザインに適した最新の国際的な執筆ガイドライン（例えば CONSORT 声明や COREQ など）に準拠することが望ましい（図表も含む）。
- (3) 原稿の分量：投稿原稿は本文と文献，図表を合わせて合計で 16,000 字（短報は 8,000 字）以内とする。図表は 1 点につき，サイズ大（A4 用紙の印刷原稿で半ページ～1 ページ以内）を 1,600 字，サイズ中（半ページ以下）を 800 字，サイズ小を（1/4 ページ以下）400 字として換算する。投稿前に合計文字数を確認し，表紙に総換算数を提示すること。
- (4) 原稿の構成：①表紙（論文種別・タイトル・著者名・所属・key words）※日本語と英語，②要旨：日本語（600 字以内）と英語（300 語以内），③本文・文献，④図表
- (5) 本文レイアウト：横書で A4 用紙に見やすく配列する（40 字×40 行）。また，原稿には頁番号，行番号をつける。
- (6) 文章表現：現代かなづかい，算用数字，数量は国際単位系（SI 単位）記号を用いる（例；m,cm,mm,ml,kg,cm² など）。外国語名（地名，人名，その他）は，原則として原語を用い，略語はカッコ内にフルスペルで記載する。句読点はカンマ（,）とピリオド（.）を用いる。
- (7) 文献引用：論文中に他の著作者からの引用を行う際には，著作権について配慮し，該当箇所に以下の例のように明記してください。

例) 作業科学研究では、特定の個人を作業的存在として理解する試みがなされている (Clark 他, 1999, 小田原他, 2011). Polatajko (2010) は、作業について誰が、何を、いつ、どこで、どのように、なぜ、を理解することが作業の真の理解につながると述べている。

(8) 文献リスト: 文献リストは引用文献のみとしアルファベット順に配列する。著者名は、5 名までを記載し、6 名以上は“他”とすることを原則とする。表記の形式は以下の例を参照してください。

例)

Aoyama, M., Hudson, M. J., & Hoover, K. C. (2012). Occupation mediates ecosystem services with human well-being. *Journal of Occupational Science*, 19(1), 213-225.

Clark, F., Ennevor, B. L., & Richardson, P. L. (村井真由美・訳) (1999). 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメーカーキングのためのテクニックのグラウンデッドセオリー. In F. Clark, & R. Zemke, (Eds.) (佐藤剛・監訳), *作業科学—作業的存在としての人間の研究* (pp. 407-430). 三輪書店.

小田原悦子, 辻郁 (2011). ある脳卒中者が経験した作業の変化～指向性～. *作業科学研究*, 5(1), 36-44.

Polatajko, H.J. (2010). The study of occupation. In E. A. Townsend & C.H. Christiansen (Eds.), *Introduction to occupation: The art and science of living* (2nd ed., pp. 57-79). Pearson.

坂根勇輝 (2015). 回復期リハビリテーション病棟入院中のクライアントと担当作業療法士の相互理解のプロセス. *首都大学東京大学機関リポジトリ「みやこ鳥」*. https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=6222&item_no=1&page_id=30&block_id=155 (参照 2018.2.20.)

World Federation of Occupational Therapists. (2012). *Position statement on occupational science revised*. <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx> (参照 2012.7.10.)

吉川ひろみ (2008). 「作業」って何だろう. 医歯薬出版.

(9) 図・表: 学術論文の図・表として体裁を整える必要がある。以下の点に留意すること。

- 1) 図・表はすべて番号 (例; 図 1, 表 1) と表題をつけ, 図は図の下に, 表は表の上に入れる。また, 必要な場合は説明を入れること。
- 2) 必要がない場合は表に縦線を使用しない。
- 3) 図・表は本文とは別にまとめて 1 つの PDF ファイルとする
- 4) 本文中に図・表の挿入場所を明示する。
- 5) 図は鮮明でそのまま製版できるものを準備する。
- 6) 引用・転載の図・表は, それぞれの出典を明記する。